

普通科「教育類型」の教育内容の充実等を通じたの特色ある学校づくり

兵庫県立明石西高等学校
教諭 日置 貴之

1 取組の内容・方法

(1) 普通科「教育類型」の教育内容の充実と生徒の育成

平成 20 年度より特色ある学校づくりの一環として、普通科に「教育類型」が設置され、教育界で活躍する人材の育成を図っています。私は、転勤してきてすぐにこの「教育類型」1期生の担任となり、3年間そのクラスを担当し、その後すぐに普通科長（教育類型主任）として、教育類型の教育活動と学校及び教育類型の広報活動に常に関わってきました。

教育類型では、より良き指導者の育成を目標とし、「実体験」と「自己表現」を2つの柱として、ミニティチャー体験やディベートなど様々な活動を行っています。そこで得る多くの経験により、自らの夢・目標を明確にしてもらいたいと考えています。

【現在の活動内容】

○「実体験」

- ・赤ちゃん先生（2年次 年3回実施）
1歳前後の乳児と母による保育体験、保育体験談等
- ・幼稚園ミニティチャー体験（1年次 年3回実施）
二見こども園での園児との交流、芋ほり体験等
- ・小学校ミニティチャー体験（2年次 年1回実施）
二見西小学校での模擬授業体験



○「自己実現」

- ・ビブリオバトル（2年次 年1回実施）
書評合戦：自分の好きな本をいかに人に読みたくさせるかのプレゼン合戦
- ・プレゼンテーション（3年次）
より効果的なプレゼンテーションとは？を考え、クラスの前でプレゼン。友人からの他己評価を踏まえ自己PRを完成。面接試験等に生かす
- ・ディベート（2年次 年2回実施）
「高校生の修学旅行は海外にすべきか」「教科書はすべてデジタル化すべきか」などをテーマに、オープンハイスクールの時に中学生の前で実演



過去には、新聞の読み解き講座や放課後小学生への学習ボランティア、大学を訪問しての模擬授業、大学教授・幼稚園園長・小学校教諭等による特別講義等の教育活動も取り入れてきました。

(2) 生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態の研究

平成 28 年度より 4 年間、兵庫教育大学が主管する文部科学省委託事業「中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導法に関する実証研究」の研究協力校として、本校は、「生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態」の研究に取り組んできました。私は、その担当として次のような取組を行いました。

- ① 毎時間授業の初めに One-Minute-Chat（与えられたテーマに対しての 1 分間フリートーク）を行い、生徒の英語の発話機会を増やす。
 - ② 1 年次には、英語コミュニケーションの時間に Photo Language を入れ、発話の即興性を促す。また、スピーキングテストや定期考査にその題材を使用する。
 - ③ 学年担当の教員間で使用教材（パワーポイント）を共有し、授業内容を統一する。
 - ④ ゲーム形式で Word-Definition（単語当てゲーム）をペア活動の中に取り入れる。
 - ⑤ 2 年次より One-Minute-Chat の内容をボイスレコーダーに録音し、書き起こしをさせ、自分の発話を振り返る機会を設ける。
- ①～⑤など、兵庫教育大学の助言や協力のもと様々なことにチャレンジできました。

2 取組の成果

(1) 普通科「教育類型」の教育内容の充実と生徒の育成

平成 20 年度の創設から 5 年間ぐらいは、すべてが手探りでトライアル&エラーの連続でした。以降は、徐々に形が整い始め、実際に卒業生が出始めて 2, 3 年が経って、入学希望者（説明会参加者数）も増加し、受験者数も安定してきました。特に平成 27 年度の学区拡大に伴う追い風もあり、最近では人気のある特色選抜類型の一つとなっています。

特色選抜（教育類型）の志願者数の推移（各年度定員は 40 名）

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
志願者数	42	54	49	39	53	51	70	74	85	66	84	68	55

「真のリーダーシップ」を持つ生徒の育成に努め、「実体験」と「自己実現」を柱とした教育活動を「総合的な学習の時間」、学校設定科目「教育」「教育情報」において実施してきました。また、教育類型の生徒は部活動の部長等リーダーとなり、勉学との両立を果たしています。進路としては、国公立、私立の大学等の教育系学部への進学が多いですが、理学療法士、消防士、警察官等として貢献する卒業生もいます。

(2) 生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態の研究

兵庫教育大学は平成 28 年度から 4 年間、高校 4 校・中学校 3 校を研究協力校として文部科学省の委託事業を実施しました。明石西高校は主に「生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態」の研究に取り組み、コミュニケーション重視の授業を実施し、楽しめる授業展開に効果が出ています。そして、英語の 4 技能育成において、国際人間科及び普通科全体に成果が見られます。また、研究にかかる公開授業を平成 30 年度に 2 回（5・11 月）実施し、近隣の中学校や高等学校等から 34 名の参加がありました。

授業においては、これまでと比べ、ペアワーク・グループワークの機会が増えたことによって雰囲気が大きく変化しました。生徒のアンケートによると、英語の授業が楽しいと感じている生徒が多くなったと同時に、教員も授業が楽しいと感じるようになり、新しい取り組みに意欲的にチャレンジするようになりました。このことは、コミュニケーション重視の授業を実践することの有用性を示す一つのエビデンスになると思われます。

本研究では、検証材料としてこの期間に受験したGTECの結果を参考としていますが、結果は次の通り4技能において上昇してきています。

GTECにおける英語4技能の変化

技能	介入	1年冬		2年冬		3年夏	
Reading	有	127.6	A1.3	142.6	A1.3	167.8	A2.1
	無	124.4	A1.3	133.3	A1.3	-	-
Listening	有	131.6	A1.3	138.8	A1.3	167.1	A2.1
	無	130.1	A1.3	140.2	A1.3	-	-
Writing	有	170.3	A1.3	190.0	A2.1	190.9	A2.1
	無	168.9	A1.3	173.6	A1.3	-	-
Speaking	有	136.0	A1.2	179.5	A1.3	172.1	A1.3
	無	130.6	A1.2	123.0	A1.2	-	-

※A1.3 や A2.1 等はGTECのランクを示す。介入無は2016年度の結果、「1年冬」「2年冬」は異なる集団。

3年次は選択授業や問題演習が多くなり、1, 2年次の授業形態とは異なり、検証は困難。

次に、研究実施の年度毎に取った生徒アンケート（兵庫教育大学実施）の結果において、介入の無と有で大きな差が出ている項目は、次の通りです。

英語の勉強をして、世界のいろいろな国の人たちやその人たちの暮らしについて知りたい	2.8⇔3.0
クラスみんなの前で英語を話すとき、準備をする時間があれば安心して英語を話すことができる	2.1⇔2.8
英語の授業には、楽しいと感じる瞬間が多くあると思う	2.5⇔2.9
英語の授業では、「活動に集中していたらあっという間に終わってしまった」と感じる人が多い	2.5⇔2.8
英語の授業では、先生やクラスメートに自分の頑張りや優れた点を認めてもらえる機会が多くある	2.2⇔2.5
英語の授業で行うクラスメートとの話し合いでは、重要なことに気付いたり、新しいことを学べたりすることが多い	2.4⇔2.8
英語の先生は、生徒同士がお互いに助け合えるよう工夫して授業をしていると思う	2.6⇔3.0
英語の授業では、聞いたり読んだりしたりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う	2.5⇔3.1
英語の授業では、与えられた話題について即興で話す活動をしていたと思う	2.3⇔3.2

※数字は、介入無⇔介入有（2年冬実施。4点満点での平均値を比較）

生徒のアンケート結果からも分かるように、生徒、教師それぞれの立場から授業改善の効果はあったと感じられます。生徒の立場から見た効果としては、「コミュニケーション活動や英語の発話が多くなり、授業が動くので時間がアツという間に過ぎ

る」、「英語での発話は、続けていくことで間違いを恐れず積極的に発言しやすくなる」、「パワーポイント等で映像を利用することで、授業の導入や内容理解がしやすくなる」、「自分や教師だけでなく、他の生徒の英語に触れる機会が多くなる」、「何よりも、英語を使って楽しめる」などの声がありました。

教師の立場から見た効果としては、「教材を他の教員と共有でき、授業内容の統一が図れる」、「黒板への板書など、時間の浪費がなくなる」、「生徒達をいかにエンカレッジするか集中できる」、「パワーポイントの流れにのると、1時間がアツという間に過ぎていく」、「生徒が楽しむ姿を見て行う授業は、こちらもやはり楽しい」などの感想がありました。

3 課題及び今後の取組の方向

(1) 普通科「教育類型」の教育内容の充実と生徒の育成

平成 20 年度より、普通科に「教育類型」が設置されて以降、1 期生から 10 年以上、私はその教育活動に関わってきました。10 年の間には、学区拡大の影響もあるとともに、社会の変化に伴う入学する生徒の変化も見られます。常に、教育内容を工夫し改善しながら、その充実を図ってきましたが、これからもその変化に対応しつつ、より良き指導者の育成を目標に取り組んでいきたいと思えます。

特に、今年度は神戸市で起こった「東須磨小事件」により、教員の資質を問われる報道が盛んに行われ、教員を志望する者への影響も見られました。改めて、本校の教育類型が掲げる「社会や自己の将来について考察」、「コミュニケーション能力等の『生きる力』の育成」、「特色ある教育活動」等を柱とする「育てよう 夢、見つけよう 未来」の取組を推進したいと思えます。そのために、これからも「教育類型」の教育を推進する後継者の育成にも取り組んでいきたいと思えます。

(2) 生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態の研究

平成 28 年度から 4 年間、主に「生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態」の研究に取り組み、コミュニケーション重視の授業に改善することで、楽しめる授業展開に効果が出たり、英語の 4 技能育成において、国際人間科及び普通科全体に成果が見られたりしましたが、何点か課題が見られました。その課題とその対応は次の通りです。

課 題	対 応
準備にかかる時間(毎時間のワークシートとパワーポイントの準備等)	作業に慣れるか、他の教員と協働し仕事の分担をすれば短縮は可能である。
機器の準備や不具合への対処	多くの教師にとってのハードルが高く、トラブルの対処法に慣れる必要がある。
意識の切り替え (生徒に教えるく生徒を動かす)	これからの英語の教師にとって真に必要となってくるもので、今までの自分の普通に疑問を持ち、新たに挑戦してみる。年齢や生徒を理由にせず、まず自分からちょっとやってみることである。

兵庫教育大学と連携した授業改善の取組の中で、大学の先生方や一緒に授業を行ってきた同僚の先生方、そして生徒達から多くのことを教えられ、経験することができました。自分にとっても改めて自分の授業を主観的・客観的に見つめ直すのは本当に良い機会であったと思います。何が良いかとか悪いかではなく、自分の当たり前を疑ってみることが何より大切なことだと、この取組みを通じて感じさせられました。